

## 図書 紹介

### 企業コンプライアンス

著者：後藤敬二（西村ときわ法律事務所）

発行：㈱文藝春秋 / 102-8008 東京都千代田区紀尾井町 3-23 / 03-3265-1211 /

A 5 判 / 200 頁 / 価格 740 円（税別） / 2006 年 9 月 20 日発行

平成 17 年から 18 年かけて耐震強度偽装事件やライブドア事件、パロマ瞬間湯沸し器死亡事故など企業に痛烈なダメージを与える不祥事が続発した。その数年前、雪印乳業の加工乳食中毒事件、雪印食品や日本ハムの牛肉産地偽装事件など企業経営に重大な影響を与える不祥事が相次ぎ、世間を騒がした。これらのほとんどは、企業自身のコンプライアンスの欠如が原因となっている。

コンプライアンスとは、企業が事業活動を遂行する上で法令・企業倫理を遵守・実践していく活動のことをいうあたり前のことであるが、これまでは、「建前より本音が優先」という企業ムラ社会の論理がまかり通り、利益優先のためには法令を守らず、違法営業を容認することが珍しいことではなかった。

企業は効率的な経営をしているかだけでなく、コンプライアンス経営をしているかを評価の基準とするようになり、違法を容認する企業は世の中が見放すようになってきた。企業にとっては、社会の目が厳しくなり、こうした中で生き抜いていくためには、内部統制システムの整備することが必須になってきている。その中核はコンプライアンス体制及びリスク管理体制の充実強化である。本書の内容は、次の第 1 部 6 章と第 2 部 4 章から構成されている。

#### 第 1 部 企業不祥事の実例 - コンプライアンスとリスク管理不在の末に

##### 第 1 章 ライブドア事件

##### 第 2 章 三菱自動車リコール隠し事件

##### 第 3 章 雪印乳業食中毒事件・雪印食品産地偽装事件

##### 第 4 章 西武鉄道総会屋に対する利益供与事件・有価証券報告書虚偽記載等事件

##### 第 5 章 松下電器石油温風機死亡事故・パロマ瞬間湯沸かし器死亡事故

##### 第 6 章 耐震強度偽装事件

#### 第 2 部 企業不祥事防止のために何をすればいいのか

##### 第 1 章 最近の企業負傷事と多様化・巨大化する企業リスク

## 第2章 会社法により整備が求められる内部統制システム

## 第3章 コンプライアンス体制・リスク管理体制確立のための具体的な取組み

## 第4章 危機対応時における的確、迅速な対応

次に第2部の主なサブタイトルを記すと、第1章では企業不祥事の分類、企業不祥事「発覚」多発の原因等、第2章では内部統制システムとは及び内部統制システムの意義、第3章ではコンプライアンスとリスク管理の意義、コーポレートガバナンス確立の重要性及びコンプライアンス体制とリスク管理体制の整備、第4章では危機発生時の的確な対応、報道発表における的確な対応及びダスキン無許可添加物使用肉まん販売事件に見る危機対応のあり方等となっている。

食品関係では、雪印乳業・雪印食品（第1部第3章）及びダスキン（第2部第4章）が取り上げられている。一昨年9月発行した食品安全マネジメントシステムISO22000でもコンプライアンスとリスク管理がその中心となっている。

企業不祥事の多発は、「これまでは問題なかったことが、世の中の価値観が変わってそういうことはダメになってきた」、言い換えれば、企業ムラ社会の論理が一般社会では通用しなくなったためである。その変化に対して企業のトップや従業員の意識が変わらなければならないが、それに気がついてはなかなか変えられないのも一因であろう。しかし、もはやコンプライアンスとリスク管理なくして企業は成り立たなくなっている。

本書は、新書版で手軽に「企業コンプライアンス」に対する理解を深めることのできる好書である。

（学会事務局）